

今回のオンライン授業では、下のくまTOMO本紙を教材にMOの連載「ふれすけとプログラミングDX」をデジタル教材として使いました。

**ポイント**  
スクリーンでは、画面のいろいろなキャラクターやものを登場させて、プログラムを作ってみよう。「ふれすけとプログラミングDX」のキャラクターは、今回は「ふれすけ」を登場させる。ふれすけを動かすためのプログラムを作ってみよう。左のプログラムは、未完成のものです。

**ふれすけを動かそう**

「ふれすけ」は、画面の左側にいます。右側の「ふれすけ」を動かすためのプログラムを作ってみよう。左側のプログラムは、未完成のものです。

**DXとは?**  
豪華な「デジタル」で、デジタル技術を活用した授業を示す「デジタルトランスフォーメーション」の両方の意味です。

くまTOMOの連載「ふれすけとプログラミングDX」を使った合志楓の森小の授業。1月17日、合志市



## 「思い通りに動いた」「もっとやりたい」

「プログラミングを楽しく学んで、将来に役立てよう」。くまTOMOで連載中の「ふれすけとプログラミングDX」のデジタル教材を使った特別オンライン授業が1月17日、合志市立合志楓の森小でありました。連載を担当する熊本高専（合志市）の先生から指導を受けながら、5年生114人がゲームづくりなどにチャレンジしました。（藤山裕作）

くまTOMOで連載中の「ふれすけとプログラミングDX」は、昨年6月から紙面だけでなく、タブレット端末などでも楽しく学べるように「パワーアップ」しました。そしてプログラミングに詳しい熊本高専の先生の、分かりやすい解説を載せています。

## 仕組み学びゲーム作り

特別オンライン授業 合志楓の森小

今回の授業では、これまで掲載した記事などを、教室でみんなが一緒に学べるように再編集し、教材として使用。新型コロナウイルスの感染拡大のため、藤井慶准教授（45）が別室から3クラスに向けてオンライン授業を行いました。藤井准教授は、スマートフォンや冷蔵庫など、身近にある多くの電子機器がプログラムで動いている仕組みを説明。「プログラミングは世界を幸せにできる可能性があります。楽しく学んで、将来はみんなも便利な社会をつくってほしい」と呼び掛けました。

その後、児童たちはプログラミング言語「スクラッチ」を使いながら、指示ブロックを組み合わせて、ふれすけが鬼ごっこしたり、ボールを投げたりするゲームを制作。「プログラミングって難しいぞう」と、初めは苦手意識を持っていた児童たちも丁寧な指導で、ふれすけが思い通りに動くようになると、笑顔がこぼれました。藤井准教授は「動かし方など、上から順番にプログラムすることが大切。連載や図書館の本を利用するなどして、さらに学びを深めてください」とアドバイスしました。

児童たちは「あこがれていたゲーム作りを学べて興奮した」など、満足した様子。源耀仁君は「ほとんどの機械がプログラミングで動いていることを知りました。楽しかったので、もっとやりたいです」。

2020年度から小学校ではプログラミングの授業が始まりました。今回の特別授業について、角田賢治校長（54）は「専門の先生から、プログラミングを学ぶ意義を教えることができませんでした。児童のみなさんは、もっと学びたいという意識が高まったのではないのでしょうか」と話していました。



オンラインで授業する熊本高専の藤井慶准教授